

# ライフ・キャリアデザイン

日本の社会保障制度について  
いざというとき、国家は頼れるのか

# 自己紹介

□生活保護施設「救護施設」で勤務  
資格取得

□短期大学（介護福祉士・社会福祉士養成課程）で教員  
大学院

□おかざき社会福祉士事務所  
京都女子大学、他大学での非常勤講師、成年後見人、  
公的機関の委員など

# 今日の流れ

1. 社会保障制度の概要を知る
2. 自分が使える社会保障制度を知る  
将来をシュミレーションしてみる  
社会保険（年金制度、雇用保険、介護保険制度）  
利用できる社会福祉制度（成年後見制度、社会福祉協議会）
3. 地域社会で暮らすためのさまざまな支援  
地域社会の支えあいのしくみ

→ **自分のライフスタイルを見つめ直す**

社会保障制度の概要を知る

社会 保障 制度	社会保険	国民年金制度	
		医療保険制度	
		労働者災害保険	
		雇用保険	
		介護保険	
	社会扶助	社会手当	児童扶養手当など
		社会サービス	母子・父子・寡婦福祉
			障害（児）者福祉
			児童福祉
			高齢者福祉
		公的扶助	生活保護制度

[illegible][illegible]

# 今後予測されるライフイベントへの対応 (社会保障)

- 老後→**国民年金**
- 親の介護→**介護保険制度**、高齢者福祉、介護休業
- 家族の疾病→医療保険、高額医療費減免制度、障害者福祉
- 失業→**雇用保険**
- 業務上の傷病→労働災害保険
- 失業や疾病による生活困窮→生活保護法、生活困窮者自立支援制度
- 子育て→児童福祉法、社会手当、育児休業
- 離婚や配偶者の死亡→母子および父子並びに寡婦福祉法

# 安定した老後を迎えるための国民年金

◆20歳以上60歳未満の人々が加入する制度

- ①第1号被保険者：2号・3号被保険者でないもの（自営業、無職、学生等）  
定額制で16340円（2018）、無職や低所得者も含む  
免除制度や納付猶予制度あり。
- ②第2号被保険者：厚生年金保険に加入しているもの（サラリーマン、公務員など）  
厚生保険料内で賄われている
- ③第3号被保険者：第2号被保険者の被扶養配偶者（専業主婦やパート勤務者）  
配偶者の加入している保険（基礎年金拠出金）で負担



支給額65歳（繰り上げ、繰り下げあり）

①第1号被保険者：平均受給額5万5千円

40年加入（月6万5千円）

②第2号被保険者：40年加入（平均月収25万：約14万円，平均月額40万：約18.5万円）

③第3号被保険者：40年満額780100年（月6万5千円）

メリット：自身による年金負担なし

第2号被保険者の扶養家族のため、健康保険料の納付義務はない

第3号被保険者は130万までの年収は可

デメリット：配偶者の転職や退職によって第1号になる。

年収130万円を超えると第2号被保険者になる。

資格喪失時に手続きをしないと年金額が減ったり受給資格に影響がでる

**あなたがもらえる年金はいくらくらいになるでしょうか**

ゆとりある老後に必要なお金

平均 ○○万 ○千円

(生命保険文化センター「生活保障に関する調査」28年度)

**あなたにとって1ヶ月生活するのに必要な金額は？**

( ) 円

# 公的年金がもらえるのは・・・原則65歳

## 60歳で退職したら、65歳までの収入は大丈夫？

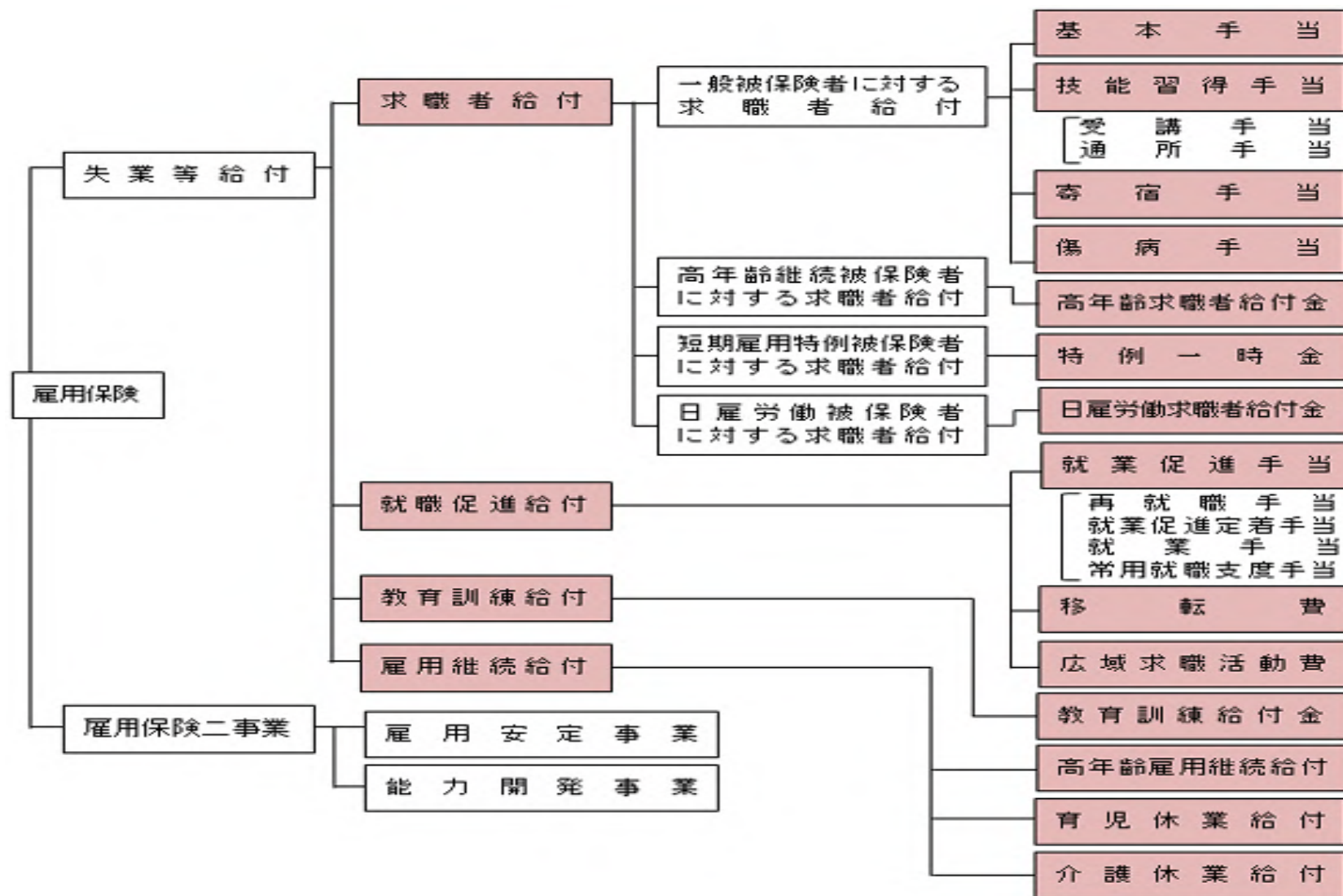
60歳で仕事を辞めてしまうと65歳までの5年間は無収入

仕事を辞めてしまう場合は生活費の確保が必要

具体的な対策として

- ・退職金
- ・預貯金の取り崩し
- ・民間保険の活用
- ・再就職など

# 雇用保険制度の概要



# 失業等給付

- **求職者給付**：ハローワークに求職申し込みを行い、就職しようとする意志があり、就職する能力があるにもかかわらず、職業につくことが出来ない場合に各自の要件によって受給期間と受給額が決まる
- 就職促進給付：基本手当の受給中に就職が決まった場合、一定の条件を満たしている人に限り支給される手当
- **教育訓練給付**：一定の要件を満たす一般被保険者等が厚生労働大臣の指定する教育訓練を受講し修了した場合、受講費用の何割かが支給
- **雇用継続給付**：高年齢者、育児休暇・介護休暇などの制度

	5年後	10年後	15年後	20年後	25年後
本人 現在 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳
配偶者 現在 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳
子ども (        ) 現在 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳
親 (        ) 現在 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳	《                》 (        ) 歳
想定される ライフイベント					

身近にせまる介護

# 介護保険制度申請の流れ





# 施設入所

## 介護保険施設

- 施設見学
- 資料で検討
- 施設に申し込み



## ケアプラン作成

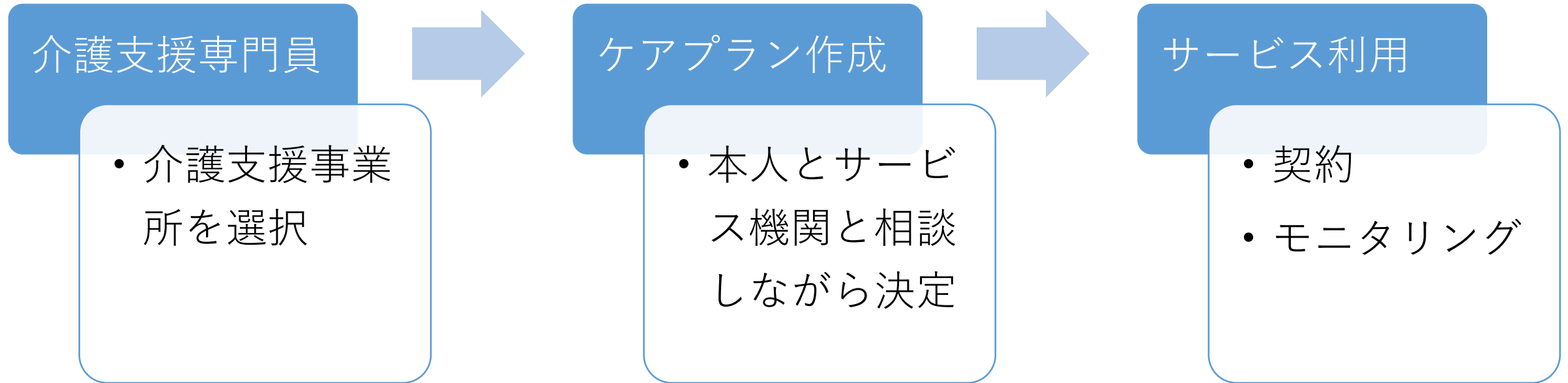
- 入所した施設のケアマネージャーとケアプランの作成



## サービス利用

- ケアプランにそって介護保険施設を利用

# 自宅で暮らしながらサービスを利用



# サービス利用をイメージ（要介護1程度）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	ショートステイ利用					訪問介護	
		訪問介護 （食事の準備と買い物）	サロン活動 （社協）	訪問介護 （食事の準備と買い物）	ディサービス （入浴と食事、レクリエーション）	介護タクシー利用  通院	息子夫婦と日帰り温泉へ外出
午後							
		訪問入浴		訪問入浴		訪問入浴	
夜間			家族が訪問				ショートステイ

# 地域包括ケアシステム

## 地域包括ケアシステムのイメージ



さまざまな社会福祉サービス

# 權利擁護

- 日常生活自立支援事業（社会福祉協議会）  
金錢管理・書類
- 成年後見制度（家庭裁判所） 專門職後見、親族後見  
成年後見（後見・保佐・補助）  
未成年後見  
任意後見
- 虐待防止法（児童・高齢者・障害者）  
身体的虐待、心理的虐待、介護放棄、性的虐待、經濟的虐待

# 地域住民による支えあい活動

- ふれあいサービス（社会福祉協議会）  
高齢者を地域住民が支えるしくみ
- ファミリーサポート（社会福祉協議会）  
子育て世代を地域住民が支えるしくみ
- シルバー人材センター  
定年退職後の能力を活用する取組み
- NPO法人（特定非営利活動法人）  
保健・医療・福祉、まちづくり、災害救援、子どもの健全育成など
- 住民自治活動（自治会、老人会、婦人会など）

# 地域住民による支えあい活動

## ◆食事サービス（自治会、町内、有志による活動）

会食サービス

配食サービス

## ◆仲間との活動・交流

「ふれあい・いきいきサロン」居場所づくり

「認知症カフェ」など



# 自助・互助・共助・公助から見たこれからの暮らし

<ul style="list-style-type: none"><li>◆自分のことを自分でする</li><li>◆健康自己管理</li><li>◆市場サービスの購入</li></ul>	自助	<ul style="list-style-type: none"><li>◆ボランティア活動</li><li>◆住民組織の活動</li></ul>
		◆ボランティア・住民組織の活動への公的支援
<ul style="list-style-type: none"><li>◆介護保険に代表される社会保険制度及びサービス</li></ul>	共助	<ul style="list-style-type: none"><li>◆一般財源による高齢者福祉事業</li><li>◆生活保護</li></ul>

- ① 主たる収入を得る人が定年になるまであと（ ）年
- ② 家族イベントは（ ）
- ③ 主たる収入を得る人が定年になってから年金受給までの必要経費は？
  - （1ヶ月の必要経費： ）
  - （1年間の必要経費： ）
  - （○年間の必要経費： ）
- ④ 定年までにすべきこと（ ）
- ⑤ 年金受給以降の生活設計について（ ）